

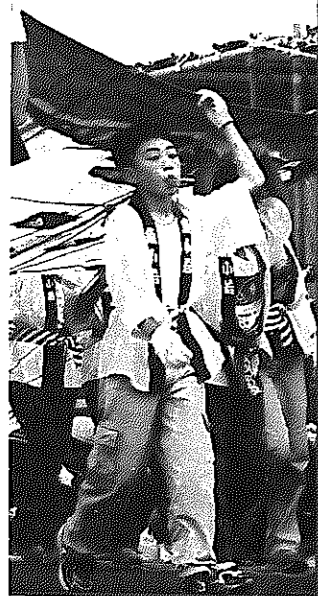


広報 しるね

特集 伝統の合戦絵巻 平成13年白根大凧合戦

7. 1
2001 No. 595

※資源保護のため再生紙を使用しています。※紙上の記事・写真の無断転用を禁じます。



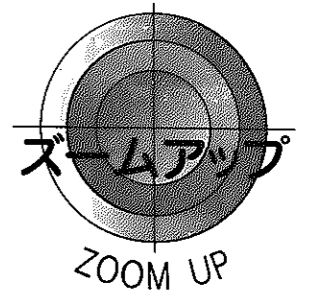
CONTENTS (もくじ)

- 伝統の合戦絵巻..... 2、3
- 自治会等代表者会議..... 4～7
- 市政クリップ..... 8、9
- 第51回社会を明るくする運動..... 10、11
- 変わります参議院議員選挙..... 12、13
- お知らせ..... 14～17
- みんなのページ..... 18
- ズームアップ..... 20

表紙 子ども大凧合戦(6月6日 中ノ口川堤防上)

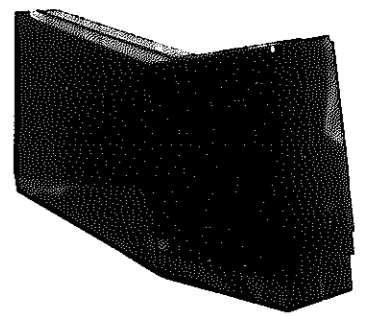


「出品のときに、作品を落としてしまったこともありました」と、失敗談も話してくれた小林さん



県展の工芸部門で奨励賞受賞

小林正三さん



工芸部門で奨励賞を受賞した小林さんの作品「鏡」

今年五月、第五十六回新潟県美術展覧会(県展)の工芸部門で、小林正三さん(曙町・六十歳)の作品が奨励賞を受賞しました。

奨励賞を受賞した作品名は「鏡」。

「ある土地の守り神『鎮守様』のいた石垣をアレンジしたもので、製作期間は二カ月間です。壁面の黒塗りが平らになるよう、注意しました」と、小林さんは自らの作品を振り返ります。

小林さんは仏壇の塗り師で、漆塗りや金ばく張り、組み立てなどをしています。「漆の勉強の一環として、二十年前に県展を見に行ったことが、美術工芸との出会いでした」と小林さん。

その後、初作品が市展の教育長賞を受賞。これをきっかけに各展覧会に出品し、これまでに県展の入選は七回、芸展(県芸術美術展)では奨励賞と連盟賞のほか、互回の入選を数えます。

「美術工芸はデザインからすべて自分で考えていかなければならない」と話す小林さん。伝統工芸品の仏壇と、美術工芸の新たな作品作りに励む毎日です。

▶数字で見る市勢 ※6月1日現在 ※()内は前月比

| | |
|----|---------------|
| 人口 | 40,762人(+ 5人) |
| 男 | 19,990人(+ 5人) |
| 女 | 20,772人(0人) |
| 世帯 | 11,146戸(+16戸) |
| 出生 | 33人 死亡 24人 |
| 転入 | 75人 転出 78人 |

編集ルーム

◎21世紀最初の白根大凧合戦では、巻凧が5日間で319戦、大凧は北風が吹いた3日間で60戦の合戦があり、およそ2,000枚の凧が中ノ口川に沈んでいきました。◎壊すために揚げる凧、このナンセンスなところが大凧合戦の魅力の一つだと思います。◎最終日、法被姿のおじいちゃんの「また合戦まで300日待たんばらの」と言う言葉が、今でも耳に残っています。(ま)

透かし凧 (静岡県相良町)

凧の空中戦で知られる相良町は、駿河湾に面した漁業の町です。この地方には、昔から、男子の初節句に祝いの凧を揚げる習わしがありました。町外れの集落登名に、古い凧があるとの情報が寄せられました。一九二〇年に揚げられた「透かし凧」でした。武者や馬、波など絵のおりに骨を組み、紙を貼って彩色し、凧を完成させます。

白根に持ち帰った凧は、傷みがひどく、修復は不可能でした。堤淳治氏が半年を費やして、二百五十本の竹骨、八百余の糸結び、彩色をして、八十年前の凧を復元しました。

義経の弓流しが描かれています。真

紅の太陽、荒波、落とした弓を拾おうとしている馬上の武者、飛び交う矢、槍。「どっと笑うて、立つ波風」と「相川音頭」にも歌われている場面が、華麗によみがえりました。

東海地方は凧の盛んな土地柄です。竹骨を曲げて作る細工凧も、多く見られます。「透かし凧」は、異彩を放っている細工凧です。



あなたも凧博士

文・田村和雄 (しろね大凧と歴史の館運営委員会委員)